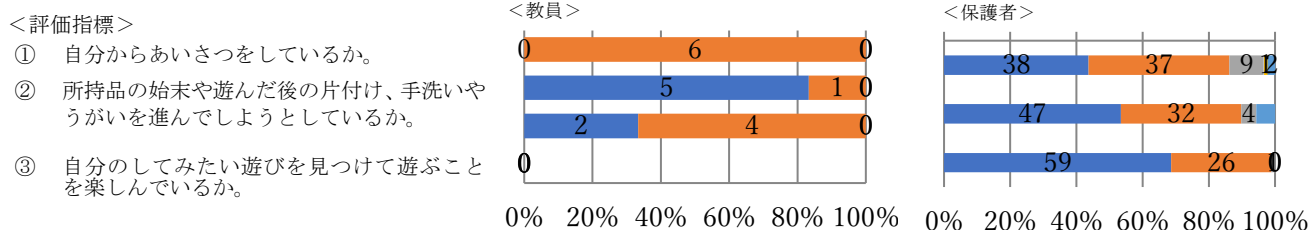


園名：中央区立有馬幼稚園 所在地：中央区立日本橋蛸殻町2-10-23
 園長名：箕輪 恵美 園児数：104名 学級数：6学級 教員数：9名 職員数：7名

1 重点目標の達成状況及び取組状況

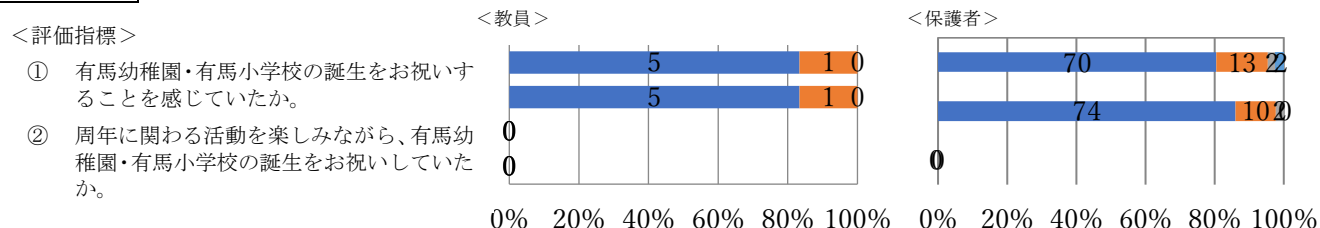
評価：A=十分達成している B=達成している C=改善を要する D=緊急に改善を要する ※=わからない

重点目標1 自分で考え行動する力を育む



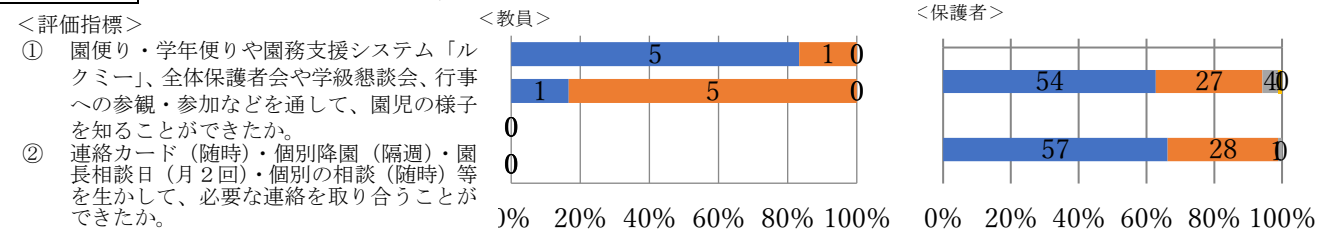
評価項目①の「挨拶」は、保護者の8割強、教員は全員がプラス評価だった。園内で挨拶している様子を見ていただく機会は朝一番の園公開の時だけなので、日頃の様子を園からも発信していく。また、登園時に自分から挨拶する園児は保護者も進んで挨拶している傾向にあるので、大人が進んで挨拶することの大切さを繰り返し伝えていく。評価項目②の「片付けや手洗い等」は、保護者の約9割、教員は全員がプラス評価だった。手洗いとうがいはコロナ禍が続いた中で入園前から身に付いている園児が多いが、片付けは個人差が大きく、家庭で片付けが週間付いていない園児が年々増えている。家庭と協力しながら身の周りのことを進んで行う力を育てていく。評価項目③の「してみたい遊びを見つけて楽しむ」は、保護者の1件以外は保護者・教員共にプラス評価だった。この項目は、幼児期に主体性を育む上で幼稚園教育の基本とすべき事柄なので、保護者・教員共に100%プラス評価となることを目指してよりよい教育の実践に努める。

重点目標2 たくましい心と体を育む



評価項目①の「有馬幼小の誕生をお祝いすることを感じていたか」は、保護者は9割強、教員は全員がプラス評価だった。今年度は周年行事のある特別な年、ということ、園児に分かりやすく伝えるために、園児にとって身近な「誕生日」という言葉をキーワードにして園児に折に触れて伝え、また、園便りや学年便りなどでも今年度が特別な年であることが伝わったことが高評価につながったと考える。評価項目②の「周年に関わる活動を楽しみながら幼小の誕生を祝う」も保護者の9割強、教員は全員がプラス評価だった。5/1の「誕生会(年中・年長)」で有馬幼稚園の歴史を映像で見せたことを皮切りに、幼稚園の誕生日をお祝いすることをテーマに取り組んだ「ありまっこデー」、9月から1月にかけて計3回開催した周年記念特別行事、有馬の全園児・全児童・幼小全教職員が参加したバルーンリリース、11/25の周年記念式典に向けての取り組み、全園児が参加した周年を祝う玄関装飾の作成などを園児が楽しめたことが高評価につながったと考える。

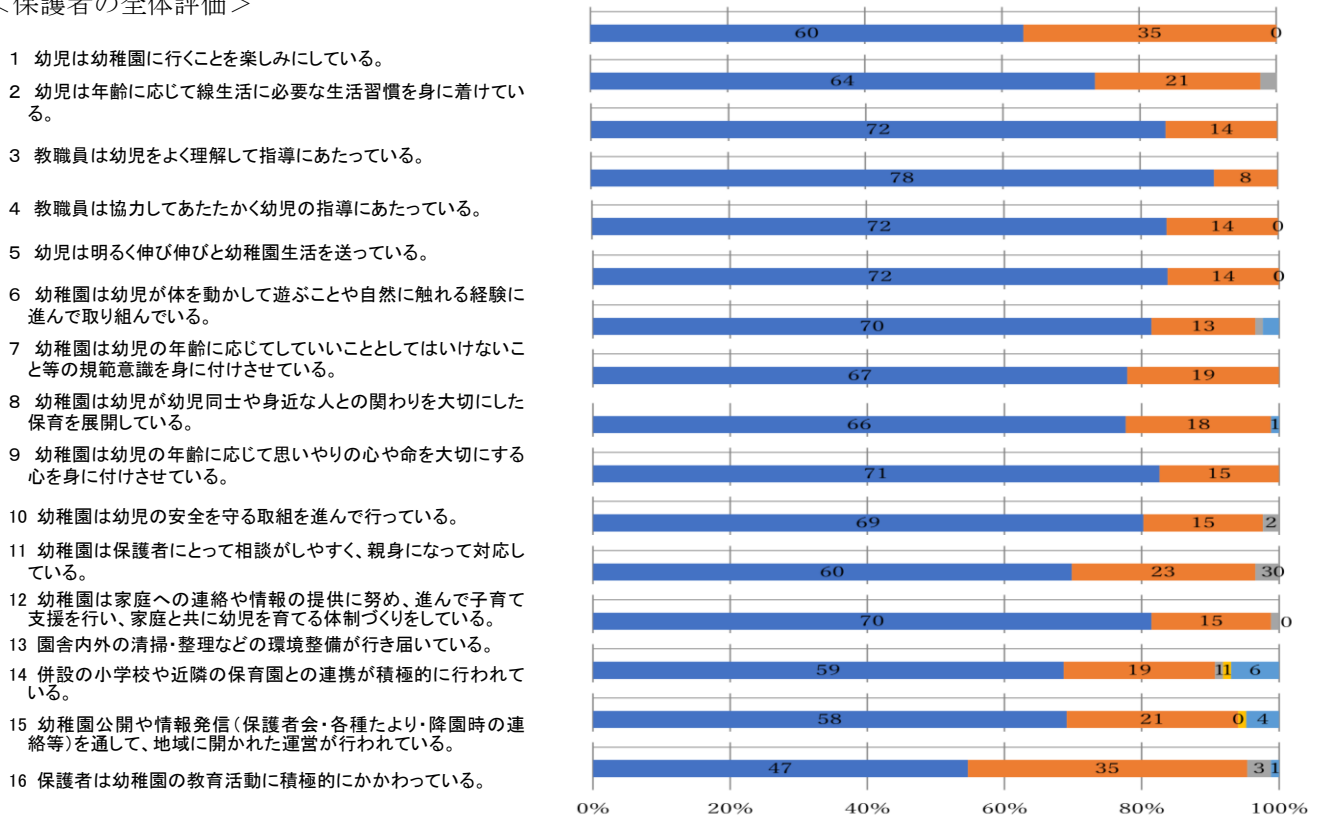
重点目標3 幼稚園と保護者の連携を進める



評価項目①の「便りや保護者会等で園の様子を知ることができたか」は、保護者は9割強、教員は全員がプラス評価だった。「ルクミー」による園内の様子の発信を昨年度よりも増やしたこと、学級・学年の様子を全家庭に発信したことで、園内の様子が分かりやすくなった・家庭で園の様子を話題にできる、という声が寄せられた。一方、「ルクミー」の発信増や手紙を「ルクミー」の発信に切り替えることを希望する声もあった。今後、園内でも検討し、日々の教育活動の準備に支障のない範囲でできることを探っていく。評価項目②の「必要な連絡を取り合うことができたか」は、保護者の1件以外は保護者・教員共にプラス評価だった。100%プラス評価を目指しつつ、今後も保護者と園が気軽に連絡を取り合い共に園児の成長を支えていく体制を維持していく。

2 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況

<保護者の全体評価>



- 16項目中7項目(1,3,4,5,6,8,10)が100%プラス評価、残りの9項目もプラス評価が9割以上という高評価だった。この結果を励みに、次年度の教育の計画・実践に生かしていく。
- 項目⑭はコロナ禍前もプラス評価が8割弱に留まっていた項目だったが、今年度は高評価となった。これは、「重点目標2」に有馬小学校と合同の周年行事に関わる内容を掲げ、年間を通して取り組んだ成果と思われる。記述には有馬小との関わりを継続を希望する声が複数寄せられた。児童・園児の交流はコロナ前に比べると少ないので、次年度以降、幼小それぞれの教育課程に交流活動を位置付け、計画的な交流を実現したい。また、近隣の保育所や福祉施設との交流も、今後、実際に顔を合わせての交流が実現できるように努める。
- 項目⑪⑫⑯はマイナス評価が数件寄せられた。解決につながる具体策を保護者からも知恵をもらい改善する。
- 記述欄には、教員の日頃の努力への感謝の言葉が多数寄せられた。保護者の皆様の言葉を励みに、今後も日々の教育活動がよりよいものとなるよう真摯に取り組んでいく。
- ルクミーの発信頻度が昨年度より増え、各学級・各学年の様子を全家庭に配信したことで他学年の様子も分かった、という声を複数いただいた。今後も今年度同等の頻度での発信を目指す。一方、園からの手紙をルクミーの配信に切り替える希望も複数いただいた。さっそく園内で検討し、3学期から「お知らせ」や「園便り」はルクミーで配信、園児の様子や教育的な意義、今後の成長の見通しを伝えたい「学年だより」は引き続き紙で配付と、内容に適した方法を選ぶことに取り組み始めた。今後も引き続き発信方法の精査を進めていく。

<教員の全体評価>

- 教員は専門的な内容で多岐にわたる評価項目で今年度の園の教育活動を評価したが、「教育課程・学習指導」「保健管理」「特別支援教育」「組織運営」「研修」「教育目標・学校評価」「情報提供」「保護者、地域住民との連携」「教育環境の整備」「特色ある教育活動」は全員がプラス評価であった。ただし、細かく見ると中には全員がB評価の項目もあった。A評価ではなかった要因を確かめ、次年度に改善を図る。
- 「安全指導」の「②避難訓練」は、唯一「改善の必要がある」という回答があった。緊急時を想定した避難訓練は元々、幼小合同で毎月実施していたが、児童数の増加やコロナ禍により別々の実施が増えた。土曜に実施される引取訓練も、園の会計年度任用職員の勤務条件により一緒に行うことが難しくなった。万が一の時に子どもの命を守り保護者に間違いなく引き渡しができるよう、緊急時に即した訓練となるよう努める。

3 今後の改善方策

- 今年度の反省評価・手応えを来年度の計画や教育内容に反映させる。また、反映したことを踏まえた実践と年間を通した定期的な評価を行う。(評価を生かした教育の実践、定期的な振り返りによる計画の微調整)
- 教員の自己研鑽を推奨し、一人一人が幼児理解をよりの確に行い、幼児の興味や発達を踏まえた環境や活動の選択や準備ができるようにする。(研究保育と事後検証、園外の研修への積極的な参加と園内の情報共有)
- 情報機器を活用した情報発信や教育活動の工夫に取り組む。(ルクミーと手紙の使い分け、ルクミーならではの内容の発信、iPadのアプリを活用した教育活動の創造)